

里山が涙の引退会見「最後までスタイル貫けた」

＜日刊スポーツ＞ [2018年11月25日16時20分]



今場所限りで引退した元前頭で西幕下9枚目里山(37＝尾上、鹿児島県出身、本名・里山浩作)の引退会見が、九州場所千秋楽の25日、会場の福岡国際センターで行われた。

思わず涙がこぼれた。自身にとって最も思い出深いのは、07年春場所で十両優勝し、次場所で新入幕を果たしたこと。その年の1月に父・博昭さん(享年66)を亡くしていた。当時を思い出し「父が他界してすぐの場所だったので…」と感極まった。

04年3月に初土俵を踏み、最高位は前頭12枚目。最後の場所は3連敗からの4連勝で勝ち越した。「最後まで自分の相撲のスタイルを貫けたと思う」と、目を赤くしながら笑顔で語った。師匠の尾上親方(元小結浜ノ嶋)は「気持ちの強さがある力士だった。幕下で3年以上過ごす時期もあったけど、そこからはい上がった。家族の支えも大きかったと思う」と弟子に労いの言葉を贈った。

今後は年寄「佐ノ山」を襲名し、後進の育成に専念する。